

|     |        |        |        |        |        |        |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 解 答 | 1 (B)  | 2 (A)  | 3 (B)  | 4 (B)  | 5 (C)  | 6 (B)  |
|     | 7 (A)  | 8 (B)  | 9 (B)  | 10 (D) | 11 (A) | 12 (C) |
|     | 13 (A) | 14 (A) | 15 (C) | 16 (C) | 17 (C) | 18 (A) |
|     | 19 (C) | 20 (B) |        |        |        |        |

1. A: 「今夜レポートが終わるよう作業し続けるべきですか」  
 B: 「いや、その必要はありません。明日終わらせてください」

▶ have to do で「～しなければならない」という義務や必要を表す。A の発言「作業し続けるべきですか」に対して、B は No, you ( ) have to. で応えているので、「～しなくてもよい」という内容であると類推できる。よって、(B)が正解である。  
 ▶ (C)mustn't (= must not)は「～してはいけない(禁止)」の意味を表す助動詞。  
 (D)wouldn't(would not)は「どうしても～しようとしたかった」という過去における拒絶を表す。

[例] You **must not**[**mustn't**] drink beer in the office. [禁止]

(社内ではビールを飲んではいけない。)

My brother **wouldn't** eat carrots when he was a boy. [拒絶]

(私の弟は少年の頃、どうしてもニンジンを食べなかつた。)

□ don't have to do 「～する必要はない」 (= need not/don't need not)

▶ need not の need は助動詞。助動詞としては否定文・疑問文でのみ使う。  
 You **don't have to** take off your shoes here.

(ここで靴を脱ぐ必要はありません。)

2. 「ジョンは、もっと言いたいことがあるようだったが、突然黙り込んだ」

▶ 彼は「何か」をもっと言いたいようだったとなるので、(A)が正解。(C)anything は肯定文で使うと、「どんなことでも、何でもいいから」といった意味になるので、ここでは不適。  
 ▶ some, every, any, no に -one, -body, -thing をつけた形の代名詞に形容詞がつく場合は、形容詞を後ろに置くことに注意。

[例] There is **something** strange about the taste of this pizza.

(このピザの味は何か変だ。)

3. 「ジョージは 3 年間フランス語を勉強しています」

▶ 問題文・選択肢より、「3 年間勉強し続けている」という意味となるような選択肢を選ぶ。has been の後に続くのは(B)studying, (D)studied であるが、「勉強する」という動作の継続を表す現在完了進行形を作るのは(B)studying である。

4. 「アルバイトを始めてみて、ようやく仕事というものがどれほど疲れるのかがわかった」

▶ only で始まる副詞句は、準否定語として扱うので、主節は倒置構文(Yes/No 疑問文の語順)になり did I realize… となる。元の文は、I realized how tiring work can be only after starting my part-time job. である。

#### ■ 倒置…否定を表す副詞(句)が文頭に出る場合

否定の意味をもつ副詞(句)が強調のために文頭に置かれると、その後は Yes/No 疑問文と同じ語順になる。

(1) **Never** have I seen such a beautiful rainbow.

(私はこんなに美しい虹を一度も見たことがない。)

(2) **Rarely** does he tell a joke.

(彼はめったに冗談を言わない。)

普通の語順だとそれぞれ次のようになる。

(1) I have never seen such a beautiful rainbow

(2) He rarely tells a joke.

文頭に置かれて倒置が起こるおもな副詞(句)には、他に次のようなものがある。

|                  |                        |
|------------------|------------------------|
| never 「一度も～ない」   | at no time 「一度も～ない」    |
| rarely 「めったに～ない」 | seldom 「めったに～ない」       |
| hardly 「ほとんど～ない」 | scarcely 「ほとんど～ない」     |
| little 「まったく～ない」 | on no account 「決して～ない」 |

5. 「弊社の最大の問題は、競合他社に乗り換える顧客が出始めていることです」

- ▶ The problem is that ~「問題は～ということだ」という有名表現があり、それに準ずる文。that 節が名詞節で補語になる。

□ The problem is that ... 「問題は…ということだ」

*The problem is that you never learn from your mistakes.*

(問題は、君が間違いから決して学ばないことだ。)

#### ■ 補語になる名詞節を導く that「～ということ」

- (1) The fact is that... (事実は…ということだ)
- (2) The trouble is that... (問題は…ということだ)
- (3) The truth is that... (真実は…ということだ)
- (4) The reason is that... (理由は…ということだ)

6. 「誕生日には何か特別な計画でもあるのですか」

- ▶ plan につく前置詞が問われている。plans for ~「～の計画」という名詞の語法として記憶しておくべきものである。

[例] a seating plan for the guests at the wedding reception

(結婚披露宴での客の座席図)

What are your plans for tomorrow?

(明日はどんな計画を立てていますか。)

7. 「ジャッキーがポールにそんなに頻繁に車を使ってほしくないならば、彼女は彼にもっと早く使うなと言っておくべきだったのに」

- ▶ if 節の中は、現在の事実に言及した内容なので、直説法。(B)~(D)のような助動詞の意味を補うのはいずれも不適。

#### ■ 代不定詞

to 不定詞の内容が前後関係から明らかなとき、前出の動詞(を含む語句)を繰り返さずに toだけを用いることがある。この to を代不定詞という。本問では、代不定詞の内容を否定しているので、to の前に not を置いている。

If Jackie does not want Paul to use the car so often, then she should have told him **not to** (use the car) earlier.

8. 「ピーターが金銭の問題を抱えていることを知っていれば、私は彼のことを助けたでしょうに」

- ▶ 後半の I would have helped him. が仮定法過去完了の主節。前半の Had I known ... (=If I had known ...) が条件節で if を省略したため倒置がおきている。

#### ■ 倒置…仮定法 if 節の if を省略

仮定法の if 節の if を省略すると、後ろの SV は倒置され、疑問文と同じ語順になる。

(1) **Were I you, I would ask her for a date.**

(もしぼくが君なら、彼女をデートに誘うけどな。)

(2) **Had we known you were in the hospital, we would have visited you.**

(君が入院していると知っていたなら、私たちはお見舞いに行ったのに。)

If を補うと、例文は次のようになる。

(1) **If I were you, I would ask her for a date.**

(2) **If we had known you were in the hospital, we would have visited you.**

9. 「自分の車を買いたいが、まだ十分な金がない」

- ▶ yet は否定文で「まだ～していない」の意味を表す。

[例] I'm hungry, but it isn't lunch time **yet**.

(お腹が空いているが、まだ昼食の時間ではない。)

| already/yet/still 「もう/まだ」の使い分け |           |              |               |
|--------------------------------|-----------|--------------|---------------|
|                                | 肯定文       | 否定文          | 疑問文           |
| <b>already</b>                 | もう(～した)   | ——           | もう(～したのか)『驚き』 |
| <b>yet</b>                     | ——        | まだ(～していない)   | もう(～したか)      |
| <b>still</b>                   | まだ(～している) | まだ(～していないのか) | まだ(～しているのか)   |

10. 「アミは今週末に私たちと京都に同行したがっていたが、ちょうど今彼女は学業でとても忙しい」

- 形容詞原級の **busy** を強調する語なので、(D)so が正解 (= very)。(A)much は比較級や最上級を強調する。(B)even「～さえも」は意味上不自然である。

□ **be busy with[at] + 名詞 「～で忙しい」**

He is busy with[at] his task. (彼は仕事で忙しい。)

11. 「私は 10 分ほど前に、トムが学校の方角に歩いているのを見かけた」

- (A)direction「方向、方角」, (B)course「課程、進路」, (C)route「道、路線」, (D)way「やり方、道路、方向」。in the direction of ~「～の方角に」という前置詞句。

□ **in the direction of ~ 「～の方角に」**

- 『方向・方角』を表す in「～(のほう)へ」。

I was walking in the direction of the station.

(私は駅のほうへ歩いていた。)

12. 「明日ピクニックに行けたらいいな。全部天気次第だ」

- (C)は, depend on[upon] ~で「～に頼る/～次第である、～によって決まる」という意味。残りの選択肢はすべて他動詞で, on と組まない。(A)forecast「～を予測する」, (B)arrange「～を調整する」, (D)affect「～に影響する」。

□ **depend on[upon] ~ 「～に頼る/～次第である、～によって決まる」**

The victory of our team will depend on his physical condition.

(私たちのチームの勝利は、彼の体調次第だろう。)

- 無生物が主語の場合は本問や例文のように「～次第である/～によって決まる」と訳すとよい。

13. 「野球のトーナメントはどのくらい続きましたか」

- (A)last には自動詞として「続く」(= continue)の意味がある。

■ **last【重要多義語】**

形 「この前の/最近の」

形 the last A to do 「決して～しない A/最も～しそうにない A」

彣 at long last 「やっとのことでの」 → at last の強調形

動 「(ある期間効果が)もつ/(時間的に)続く(= continue)」

How long will this boring show last?

(この退屈なショーはいつまで続くのですか。)

14. 「タケオの母親は、彼が今年の夏合宿に行くのを許可した」

- allow A to do で「A が～するのを許す」。残りの選択肢はいずれも A to do と続けられない。

□ **allow A to do 「A が～するのを許す」 (= permit A to do)**

- 受動態にすると, be not allowed to do「～するのを許されていない/～してはいけない」となる。

The children are not allowed to stay at school after dark.

(子供たちは暗くなつてから学校にいてはいけません。)

- (B)agree (to do)「(～することに)同意する」, (C)accept「～を受諾する」, (D)approve「～を承認する」。

15. 「皆が家庭ゴミのリサイクルによって環境保全を手助けすべきだ」

- 文意より, (C)preserve the environment「環境を保全する」(=protect[save] the

environment)が最適。(A)recover (from ~)「(～から)回復する」, (B)contribute (to ~)「(～に)貢献する」, (D)profit (from [by] ~)「(～から)利益を得る」。

□ **help A (to) do** 「A が～するのを手伝う」

▶ help は「SVO do」「SVO to do」の両方の形をとるが、原形不定詞 do を用いる場合が多く、ときには O(目的語)が省かれることもある。

He *helped (to) build* the boat. (彼はそのボートを作る手助けをした。)

16. 「ウィルソン氏は、2週間フランスへ行く予定だと私たちに知らせた」

▶ 第4文型を取る動詞を問う問題。(C)以外の選択肢は全て第3文型。(A)announce「～を告知する」, (B)report「～を報告する」, (D)reveal「～を明らかにする」。

□ **inform A that** ~ 「A(人)に～だと知らせる」

I was *informed that* they had gone on strike. [受動態]

(彼らがストライキに入ったという知らせを受けた。)

cf. **inform A of B** 「A に B を知らせる」

Please *inform us of* any change of address as soon as possible.

(住所変更がありましたら、できるだけ早くお知らせください。)

17. 「上演の当日に劇場でチケットを購入できますが、前もってオンラインで買った方が安いです」

▶ (C)は、in advance で「前もって/あらかじめ」となる。(A)ahead「前方に/先[前]に/あらかじめ(= in advance)」

□ **in advance** 「前もって/あらかじめ」 (= beforehand/ahead of time[schedule])

Let me know the time of your departure *in advance*.

(あなたの出発時刻を前もって教えて下さい。)

18. 「タイでは、水がとても澄んでいるので、海で魚が泳いでいるのが非常に見やすい」

▶ 水が「澄んでいる」ので魚が見やすい、となるので、(A)clear が正解。(B)visible「目に見える」, (C)apparent「明らかな」, (D)distinct「(物事が)はっきりした」。

19. 「マーティンの指導教授は、大学の英会話同好会に参加するよう彼に助言した」

▶ (C)以外の選択肢はいずれも「SVO to do」の形をとらない。(A)propose「～を提案する」, (B)argue「～を議論する」, (D)suggest「～を提案する」

□ **advise A to do** 「A に～するように助言[忠告]する」

『SVO to do』の形をとる動詞

- **tell A to do** 「A に～しなさいと言う」 □ **ask A to do** 「A に～するように頼む」
- **want A to do** 「A に～してほしい(と思う)」
- **expect A to do** 「A に～してほしいと思う」
- **force[compel/oblige] A to do** 「A にむりやり～させる」 (= **make A do**)
- **get A to do** 「A に～させる/～してもらう」 (= **have A do**)
- **allow A to do** 「A が～するのを許す」 (= **let A do**)
- **permit A to do** 「A が～するのを許す」 (= **allow A to do**)
- **advise A to do** 「A に～するように助言[忠告]する」
- **cause A to do** 「(主語が原因となって)A に～させる」
- **encourage A to do** 「A に～するように励ます」
- **enable A to do** 「A が～することを可能にする」
- **persuade A to do** 「A を説得して～させる」

20. 「キム、パーティーの間ずっと居られないのはわかっているけれど、せめて1時間は居てください」

▶ 「少なくとも」1時間は滞在してください、という意味になる。at least「少なくとも」は副詞句で、動詞句を修飾できる。(C)after all, (D)in the end はいずれも「結局」という意味で、普通は文全体を修飾する。(A)if only + 仮定法!「～ならよいのに[よかったです]」(と思う)」は仮定法を導く表現。